

# 「あかね」廃止方針に怒りの声 佐渡汽船株の小木直江津航路問題

佐渡汽船株の小木直江津航路の就航船舶の変更方針に関して、上越市議会全員協議会、文教経済常任委員協議会が16日、開催されました。

現在の高速カーフェリー「あかね」導入については、2013年の9月議会などで真剣な議論を重ねられてきたこともあって、今回の佐渡汽船株が「あかね」を売却して

ジェットfoilにするという方針には議員から疑問と怒りの声が続出しました。

全員協議会では、「今回の件は非常に不愉快だ。裏切られた思いだ。揺れの問題が大きいというが、導入の議論がされている時に行政側はどこまで把握していたのか」「寝耳に水だ。物流ができなくなる。（直江津港から佐渡へは）お客が車で行けない。こんなバカげた重要港湾であっていいのか」などの怒りの声があがりました。

文教経済常任委員協議会でも、「（委員会）で議論された時には）中型高速カーフェリー導入による航路の收支改善見込みも出され、收支が改善されるといふ説明もあってそれが賛成につながった。乗り心地、揺れの問題についても波高5m状況下でも安全に就航が可能であることなどお客が楽しい船旅をできると佐渡汽船株は説明してきた。あのときに私たちがの説明は何だったのか」などといった発言が続きました。

野澤副市長は、「我々も怒っている」とのべるとともに、これまでの検証と今後の方針決定についてきびしくのぞむ姿勢を示しました。市議会では今後、佐渡汽船株の幹部を参事人として呼び、議論していくことになると思います。



## イルカ死亡原因の徹底究明を

### 徹底究明を

市の水族館において、一昨年の7月から今年の7月までの間にバンドウイルカ、シロイルカが4頭亡くなった問題で、市議会文教経済常任委員協議会が20日、開催されました。担当の市教育委員会はこの場で経過などを報告し、委員などの質問に答えました。

議会側からは、「死亡原因は明らかにされているが、そこに至る要因は何か」「昨年3月、総務委員会の総意で、原因の徹底究明、パフォーマンスの実施は慎重にと求めたが、どう対応されたか」「（昨年5月に専門家2人が行った）前回の調査では、飼育がどうであったかの検証が行われなかったというのは初めて聞いた。驚いた」などの声が次々とあがりました。

市教育委員会当局は、「死亡に至る要因は現在、はっきりしたことはわからない。設備、水質、飼育などそれぞれ学術的な専門家の皆さんから、10月、11月を目途に、現場にとられない検証をしていただく」などと答えていました。

## 高齢者外出支援事業、もっと充実を

日本共産党議員団主催の議会報告会を17日、市民プラザで行いました。今回は市議選が終わってから初めての報告会でした。参加者は11人と少なかつたものの、多くの皆さんからたくさんの質問、要望が出されました。

いくつかの質問、要望を簡潔に書きますと、「避難所の工夫が必要ではないか」「高齢者の外出支援事業はもっと充実してもらいたい」「保育園の民営化をどう考えるか」「新型コロナの問題は梅谷さんと一緒にやれないのか」などとなります。しっかりと受け止めてがんばります。



【ソバナ】キキョウ科の多年草。漢字で「岨菜」と書きます。花期は8月から9月ですが、すでに咲いています。ツリガネニンジン（ノノバ）と同じ時期に、同じ色の花を咲かせ、下向きな点も似ていますが、ソバナの方が花は大きいです。花言葉は「清らかな愛」。写真は19日、吉川区の山間部にて撮りました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1969 2020.7.26**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見えてある記」はこちら  




# 春よ来い 第六一六回 タチアオイ

出会うと気になる花、あなたにありませぬか。私にはコブシ、キクザキイチゲなどいくつもの花があります。それぞれ、いろんな思い出とつながっています。

最近、私に気になっていいるのはアオイ科の多年草、タチアオイです。それも、吉川区北部にある吉川橋の上流二百坪ほどの右岸の高地にぽつんと咲いているものです。六月からずっと赤い花を咲かせ続けていますが、民家から離れたところに何故咲いたのか。しかもその花はよそのものよりも長持ちしています。そばを通るたびに気になりました。

七月三日の午後二時半過ぎ、このタチアオイのそばまで行ってみました。

車を走らせながら見たときは一本に見えました。タチアオイは一本ではなく、三本もありました。

一本一本よく見ると、真ん中のタチアオイが一番背が高く、二、三〇センチもあり、八個の花を咲かせていました。両脇のタチアオイは、一本は二個、もう一本は六個、花をつけていました。握りこぶしのようにぎゅっとしまつて、茎に巻きついていてつぼみもいくつもありました。これから咲くのでしよう。

この日は朝方に雨が降ったのでしようか、花はいずれも下向きで、花の裏側には雨の粒らしきものがいくつも残っていました。降り止んでかなりの時間が経っているはずなのに、なかなか落ちないでいる、これは初めて気づきました。

タチアオイのそばまで行ってわかったのですが、この花のことが気になっていた人間は私だけではありませんでした。タチアオイの周辺の草が少し刈ってあったのです。おそらく、タチアオイが育ちやすいようにと誰かが刈ったに違いありません。

タチアオイの姿をゆっくり眺めている時に、周りの音も私の耳に入ってきました。

ひとつは近くを流れる吉川の流れの音です。普段はザーとかゴーといった結構大きな音がするのですが、この時は、水の玉が破裂でもしたかのようなプチプチという音がしました。

次に風。タチアオイのそばに行くと、風は東から西へとゆっくり吹いていました。繰り返す吹くので草の葉がぶつかり合います。さらさら、さらさら。激しくぶつかる音ではなく、やさしくふれあう音が聞こえてきました。

そしてウグイスなど小鳥たちやセミの鳴き声も賑やかです。これは市道を挟んで反対側の山の上の方から聞こえてきました。

三本のタチアオイのまわりには様々な植物がありました。一番多くあつて、目立つたのはヨシ、そしてセイタアカワダチソウもそれに負けないくらいに仲間を増やしていました。そのほか、ヒルガオ、クズもありました。薄いピンクの花を咲かせたヒルガオは、花のほとんどが低い位置にあるためにアピール度が弱く、赤いタチアオイだけが存在感を示していました。

この吉川橋上流の赤いタチアオイは、先日行われた河川の草刈りでなくなっています。でも、一九日の日曜日、再びこのタチアオイを思い出しました。

じつはこの日のお昼過ぎ、吉川区の山間部にあるMさん（故人）宅の脇を車で通り過ぎようとして、ブレーキを踏みました。Mさんが生前から植えていたタチアオイが絶えることなく、何本も生きていて、赤やピンクなどの花を咲かせていたからです。

それらのタチアオイの写真を撮っていた時、ふと思いました。私がタチアオイを好きになったきっかけの一つは、明らかにMさん宅で何年も見てきたから。吉川橋上流のタチアオイが長く咲いていたのは、Mさんが「おらちも咲いてるよ。見にきない」と私を誘っていたからではないか、と。

## 暴力から子ども自身を守るため必要なこと

### ニュースフラッシュ

様々な暴力から子どもが自分自身を守るためにどうしたらいいか。市議会では21日、CAP・じょうえつ（代表は江村奈緒美さん）の皆さんから講演とワークショップをやっていただきました。

暴力とは人の心と体を傷つける

こと、人権を侵害することを言います。子どもが暴力にあいやすい3つの要因（①子どもは社会的な力を持たされていない、②子どもは暴力についての正しい知識を与えられていない、③子どもは孤立させられている）など、子どもが生きていく上で必要なこと、子どもへの暴力についての基礎知識などを学ぶことができました。いじめや暴力のことで相談を受けることが増えてきていますので、とても勉強になりました。



### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月15日(水)	7月22日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.057	0.050
名立分遣所	0.057	0.050
高士分遣所	0.057	0.053



### 紅モクレン咲く

7月だというのに紅モクレンが咲きました。浦川原区有島のKさん宅の庭です。この紅モクレン、いうまでもなく春にも咲いています。今回は花が3つ咲きました。どうして、いまごろ咲いたのでしょか。